

FT3値低下は霜焼けの原因？ —25年間甲状腺一筋に歩んだ開業医の人生いろいろ

札幌市医師会
上條甲状腺クリニック

上條 桂一

令和元年は良いことと悪いことがそれぞれ1つずつあった年である。良いことは米国甲状腺学会(ATA)から、入会申請費は半額で良いから入会しないか？という誘いがあったことである。実際の内容は「You are invited to join the ATA today and save up to 50% on your 2019 ATA dues.」。このメールを見た時、最近はやりの詐欺ではないかと思ったが、本当なら名誉なことであり、早速、慎重に手続きを行うこととした。難しい手続きは省略してもらうことを条件に、無事手続きを完了し、入会することができた。世界最高峰のATAも人材不足なのであろうか？

悪いニュースとしては、前橋市で開催された第62回日本甲状腺学会の評議員会で、3年後の日本甲状腺学会の会長選挙を2人で争った結果、落選の憂き目にあったことである。不運なことに、学会は台風と重なり、大会3日目の10月12日土曜日の飛行機は全便欠航、新幹線も運休とのニュースがメールで届いた。当初の予定を繰り上げ、10月11日ランチョンセミナーの座長終了後帰札しようとしたが、案の定飛行機は全便満席。しかたなく、新幹線で高崎から北斗駅まで、そして北斗駅からタクシーで札幌まで移動。到着した時刻は早朝である。本学会でキラリと輝いた発表があった。甲状腺全摘例におけるLT4(商品名チラーヂンS錠)投与中のFT3濃度測定の重要性についての隈病院の講演である。興味のある方は、Thyroidに論文が掲載されていますので一読を。これには後日談がある。隈病院の院長から、甲状腺全摘後LT4投与中でTSH値・FT4値正常の患者から、手足の冷えと霜焼けの訴えがあった。今までは、「その症状は甲状腺と関係ありません」で診療は終了する。院長は術前のFT3値を基準値として考えた。慧眼である。術前のFT3値を回復すべく、LT4を増量した結果、TSH値は基準値を下回り、患者の自覚症状は改善消失した。類似のことは¹³¹I内用療法後のバセドウ病、橋本病の経過観察中に経験することがある。T3が甲状腺ホルモン、T4はその前駆物質であり、T3の20%は甲状腺で産生、80%は末梢でT4から変換される。LT4投与のみでは甲状腺産生分のT3が不足する可能性がある。TSH、FT4のみの測定では体の組織内T3濃度の正確な判断ができない。ATAのガイドラインはその点について詳細に記載している。肝臓は血液中のFT3を取り込むことで、その機能を発揮する。

脳、心臓、下垂体、筋肉などのT4をT3へ変換能力のある臓器でも、必要量の半分は血液中のFT3を利用しているため、甲状腺機能の評価にはTSHとFT3が重要であることを指摘している。残念なことに、北海道の支払基金、国保連合会では橋本病の経過観察中FT3測定を検査過剰として査定している。このため、既述の症状で苦しんでいる患者を看過する可能性がある。橋本病でLT4を内服しつつ経過観察中の患者には、FT3値は体の内臓内の濃度を、TSH値・FT4値は血液中濃度を反映することを説明する。そこでFT3値が低いないし低めの場合は体の冷え・寒がり、霜焼け、易疲労感、倦怠感、うつ症状の有無を質問し、症状があればLT4を増量することで、症状は軽減することが多い。隈病院の院長によれば外来ではTSH、FT3のみ測定している。

今年の予定として、4月4日東京で「甲状腺と妊娠」について講演予定である。メルカゾールを妊娠初期に内服すると頭皮欠損、臍帯ヘルニア、臍腸管遺残、気管食道瘻、食道閉鎖症、後鼻孔閉鎖などのMMI奇形症候群が5.9%で見られる。また、プロピルチオウラシル(PTU)もデンマークから顔面・耳と尿管の催奇形性が2%出現することが報告されている。PTUは投与例の43.4%は肝障害・薬疹等の副作用で中止する。これはメルカゾール投与例で出現する19.0%の2倍である。PTU投与1、2ヵ月でも出現することが報告されているMPO-ANCA関連血管炎や1万人に1人発症するとの報告がある劇症肝炎は時には致死的なことがある。現在、上條甲状腺クリニックではPTUのバセドウ病患者への投与は禁忌である。副作用の頻度が高すぎることで、重篤な副作用が出現した場合に、責任を取れないからである。そこで、妊娠希望の方にもPTUではなく、次のようにしてMMIタイミング中止法を行う。MMIを妊娠4週までに中止した場合にはMMI奇形症候群が見られないことから、排卵日の子作り(胚移植)翌日にMMIを中止するMMIタイミング中止法を実施しており、そのことを中心に講演する。また、これまでの経験から考えだしたバセドウ病の診断基準は、1)甲状腺中毒症、2)TRAb and/or TSAb陽性(稀に、治療前陰性のことがあるが、治療後いずれかの時点で陽性化する)、3)カラードプラ法で甲状腺血管密度(血流)値高値 and/or Tc-99m摂取率高値、4)STを疑い経過観察中4ヵ月以上甲状腺中毒症が持続した場合バセドウ病と診断、5)TNG除外、である。以上の点を中心に5月30日昭和大学甲状腺フォーラム学術集会和7月8日神奈川臨床甲状腺研究会で講演する。

安全、安心の甲状腺医療を目指し、奮闘努力している一開業医の人生の一コマを紹介した。